

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成22年10月7日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 物質 - 細胞統合システム拠点

職名・学年 特定拠点助教

氏 名 山 本 真 平

事業区分	平成22年度・国際研究集会派遣助成	
研究集会名	無機材料に関する第7回国際会議 Seventh International Conference on Inorganic Materials	
発表題目	Corrosion-Resistant, Dispersible, and Organo-Functional -Fe Nanoparticles	
開催場所	フランス、ビアリッツ	
渡航期間	平成22年9月8日 ~ 平成22年9月19日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有()	
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000 円
	使用した助成金額	200,000 円
	返納すべき助成金額	0 円
	助成金の使途内訳 (使用旅費の内容)	航空券代 200,000円 ----- ----- ----- ----- -----

京都大学教育研究振興財団助成事業の平成 22 年度国際研究集会派遣助成を受けて参加した会議は Seventh International Conference on Inorganic Materials である。本会議は無機材料研究のほぼすべての分野を網羅する分野横断的な会議であり、世界各地で 2 年に 1 回の頻度で開催されている。7 回目となる今回の会議はフランスのピアリッツで開催された。開催地であるピアリッツは、スペインとの国境近くに位置する都市である。ピレネー山脈をはさんだスペイン側と併せて、バスク地方と呼ばれる文化圏に属し、一般にイメージされるフランスとは異なる文化的な彩りを帯びた都市である。

会議は 9 月 12 日から 14 日までの 3 日間にわたって開催された。口頭発表に関しては金属酸化物および金属間化合物の固体化学、多機能性材料、マルチフェロイック材料、エネルギー変換・貯蔵材料、新規高温超電導体、ナノマテリアルと極めて広い分野にわたったセッションが設定された。講演者はいずれ世界のトップレベルの研究者であり、いずれの講演を取っても得るところの非常に多い有意義な内容であった。

本会議では口頭発表に加えて、ポスター発表のセッションが 2 日間にわたって設けられ、各日約 80 件ずつ、合計 160 件程度のポスター発表が行われた。私は「Corrosion-Resistant, Dispersible, and Organo-Functional α -Fe Nanoparticles」というタイトルでポスター発表を行った。私の専門であるナノ材料は、残念ながら今回の会議ではさほど中心となるようなテーマではなく、ナノ材料に関するポスター発表の件数はあまり多くは無かった。また、私のポスターを訪ねてきてくれた人は 10 人程度とあまり多くは無かったが、いずれの人とも突っ込んだ非常に有意義な議論ができたように思う。

会議に参加する大きな目的の 1 つは、研究のアイデアを得ることにあると思う。その観点から考えれば、数こそ少なかったがナノ材料に関するポスター発表はいずれも近い将来に自分の研究に役立ちそうな、いわば「即物的」な興味をそそる内容であった。それに対して、ポスターセッションの残りの大半の発表は自分の専門とは一見「無関係」な内容であったが、自分の興味を引く研究はその中にこそ多くあった。それらは、今すぐには全然（自分の）役に立たないものであったり、あるいはどのようにして応用すればよいか全く見当がつかないものであったりはしたが、いずれも「何か面白そうなことができそう」と感じさせる内容を持っていた。このような、いわば将来の研究のアイデアをたくさん集められるのが良い会議だと思うが、その観点から考えれば今回の会議は極めて有意義な会議であったと思う。

今回特に感じた会議に参加するメリットは、他国の研究者であったり、他分野の研究者であったりするが、通常は会うことのできない研究者とのつながりが生まれえることである。今回の会議は無機材料研究のほぼすべての研究分野を網羅する分野横断的な会議であったので、極めて幅広い分野の研究者とのつながりを作りうる良い機会であったと思う。その点に関して、一人のフランス人の教授が言っていたことが印象に残っている。その先生は分野における大御所で当然招待講演になってもおかしくない研究者であるが、今回の会議ではポスター発表をしていた。内容に関してディスカッションした

後の雑談でどうしてポスター発表なのか尋ねると「口頭発表よりポスター発表のほうが楽しいよ、相手のことも色々わかるし」と言われ、自ら好んでポスター発表に申し込んだと言われた。口頭発表が学会の華であり、ポスター発表は口頭発表の選にもれた人がするものと考えていた自分には全くない考え方であり、目からうろこが落ちる思いをした。

確かにポスター発表は多くの人と直接に話せるメリットがあるので、口頭発表と比較して多くの人とのつながりを作りやすいはずである。更に自分のこれまでの経験から考えてみれば、口頭発表で質問を受けた人のことは（あまり）覚えていないが、ポスター発表でしゃべった人のことは比較的よく覚えているように思う。これまでは海外の会議に参加するのであれば口頭発表が絶対と思いこんでいたが、今回の会議に参加することによりそのような考えがなくなったように思う。これからはポスター発表も重視して、できるだけ多くの学会に参加しようと思う。

以上のように今回の学会参加は、学術上も非常に有用であったのみならず、それ以外のことに関しても収穫の多い学会であった。貴財団のご援助によりこのような有益な時間を持つことができ、非常に感謝しています。